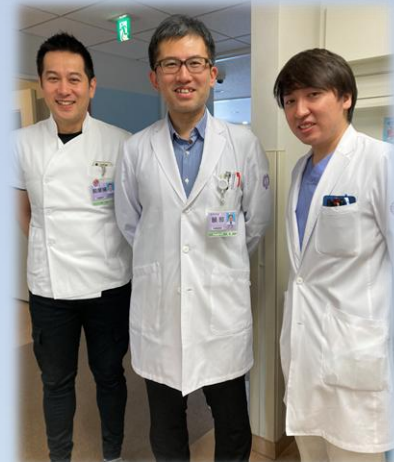


順天堂大学練馬病院外科だより

呼吸器外科：新科長のごあいさつ

2026年4月から、呼吸器外科科長を拝命しました服部有俊です。呼吸器外科の対象疾患は、**原発性肺がんを筆頭に、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸、胸部外傷**など多岐に渡りますが、その主体である肺がん外科治療はここ数年で大きな進歩を迎えております。早期肺がんの外科治療として肺葉切除とともに区域切除が新たな標準治療に加わり、がんの根治性と肺機能温存のバランスが患者さんの予後改善に重要であることが示されました。また、進行肺がんに対しては、薬物療法と外科治療を組み合わせた治療の有効性が示され、肺がん根治を目指した治療は世界的にも大きく前進しています。今後も最新の知見をもとに、最善の外科治療を提供してまいります。また当科は大学病院の特徴を生かし、高齢者の方、心疾患、脳血管疾患、肺疾患、糖尿病、膠原病、透析や神経疾患など、**様々な併存疾患をお持ちの方にも幅広く対応**するとともに、**胸腔鏡やロボット支援下手術などの低侵襲治療**も積極的に取り入れております。皆さまのニーズを大切に、地域の外科治療に貢献できるようチーム一丸で取り組んでまいります！



当科メンバー集合! (筆者中央)

まずは、いつでもお気軽にご相談ください！

呼吸器外科 科長 服部 有俊

心臓血管外科：大動脈瘤・大動脈解離と家族歴

～検査で防ぐ突然死～ 大動脈瘤や大動脈解離は、高齢者の突然死の原因として見過ごせない疾患です。無症候のまま進行し、破裂や解離によって命に関わることもあるため早期発見と管理が極めて重要です。中でも「**家族歴**」は極めて強い**リスク因子**です。一次近親者(父母・兄弟姉妹)に腹部大動脈瘤(AAA)や解離の既往がある場合、発症リスクは**2～6倍**に上昇するとされています。**喫煙歴のある65歳以上の男性や、高血圧・脂質異常症を有する高齢者**もまた高リスク群にあたり、腹部エコーやCTなどによるスクリーニング検査が推奨されます。実際に当科でも「父親がAAAで突然死した」という70歳男性にCT検査を行い、瘤径42mmの無症候性AAAの発見に至った例もあります。とくに患者さんが「家族に心臓や血管の病気がいた」といった場合には、積極的な検査をご検討いただければ幸いです。検査で見つかった瘤、解離について診断や治療方針でお悩みの際にはお気軽に当科までご紹介ください。

- ・ 父・兄弟に腹部大動脈瘤があった方は、65歳以降に超音波検査をご検討ください
- ・ 喫煙歴と家族歴が重なるとリスクはさらに高くなります
- ・ 早期発見で手術適応のない場合でも相談うえ当科でフォローアップ可能です

心臓血管外科 土肥 静之

